

令和3年度「選挙トリセツ」概要

【静岡新聞 WEB版記事】※2022年2月22日掲載

◎記事名：「選挙トリセツ」作成 静岡市内大学生 高校生用にデザイン

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1029874.html>

2015年成立の改正公職選挙法により、翌年実施の選挙以降、選挙権年齢が18歳に引き下げられ、高等学校での「主権者教育」の活発化が急務となっています。

そこで静岡市としては、「主権者教育」がより効果的に行えるよう、高校生と年齢が近い「大学生」の視点を基に、選挙が「身近」かつ「楽しい」と思えるような、「投票へのファーストステップ」を形成する意図で、県内の学生とともに「選挙トリセツ」を毎年度作成しています。

令和3年度は、「多くの高校生の関心分野」から学生メンバー全員が「ゲーム」を想起し、協議を重ねた結果、「レトロゲーム」をモチーフとしたデザインを採用し、「選挙トリセツ」を作成しました。

実際のトリセツ紙面では、「勇者」「国王」といった表現を用いて「ゲーム」の世界観を徹底させつつ、若者の投票率低迷の原因を掘り下げています。

このように、親しみあるタッチと現実の選挙を取り巻く環境とを組み込み、高校生に対して、「主権者」「有権者」としての「責任」を自覚してもらうことを主眼として、啓発冊子を完成させました。

また、本学からの参画学生である竹村弘樹さん(人間社会学科3年生)は来年度、静岡市が新たに旗揚げする選挙啓発活動「行くよ！選挙 静岡市選挙サポーター」にも参画する予定です。

そこでは、本活動での経験を活かし、次は高校生に限定しない、広い意味での「若者」に向けた選挙啓発を、市や他の学生と再び連携して行うとのことです。

なお、竹村さん本人のコメントは「参画学生のコメント」として別に掲示しているので、そちらも「選挙トリセツ」本体および新聞記事と併せてご覧ください。



※画像：令和3年度「選挙トリセツ」最終ページより抜粋